

淀川水系流域委員会規約の改正について

経緯

- ・第12回委員会（6/6開催）にて、「委員会ワーキンググループ（以下WG）の設置に伴い、次回委員会にて流域委員会規約の改正について諮る」ことが決定
- ・第13回運営会議（7/16開催）にて、規約改正方向として、「委員会のWGを正式な組織として位置づけるよう、規約改正案を作成する」ことが決定

規約の改正方向

- ・委員会ワーキンググループ（以下WG）について、規約に明記する。
- ・委員会WG専任委員の任命について、規約に明記する。

（改正案は次頁以降を参照下さい）

規約の改正の条件

規約の改正については、委員会委員総数（23名）の三分の二以上（16名以上）の同意が必要（淀川水系流域委員会規約第9条「本規約の改正は、委員会委員総数の三分の二以上の同意を得てこれを行う」となります）。

なお、7/29 14:00現在、第13回委員会をご欠席される、下記3名の委員より上記の規約改正方向について委任状を頂いています。

- ・山村委員
- ・谷田委員
- ・植田委員（ファクスにて受け取り。本紙は7/30朝に到着予定）

以上

別紙：規約改正案（太字、下線部分が変更または追加箇所です）

淀川水系流域委員会 規約

（設置）

第1条 河川法（昭和39年法律第167号）第十六条の二第3項に規定する趣旨に基づき、近畿地方整備局長（以下「整備局長」という。）が「淀川水系流域委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（目的）

第2条 委員会は、淀川水系河川整備計画【直轄管理区間を基本】の策定にあたり、同河川整備計画について意見を述べるとともに、関係住民の意見の反映方法について意見を述べることを目的とする。

（委員会）

第3条 委員会は、委員会での審議、部会から報告を受けた事項に関する審議、調整を行い、委員会としての意思決定を行う。

2．委員会は、部会に対して審議する事項について指示する。

3．委員会委員は、別表 1 に示す者とする。委員会委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4．委員会は、委員総数の過半数の出席をもって成立する。なお、委員の代理出席は認めない。

5．委員会の意思決定は出席委員の過半数をもって行うが、少数意見がある場合にはこれを付する。

6．委員会は、審議しようとする事項について必要と認める場合は専門的知識を有する具体的候補を選定のうえ、委員会委員、部会委員又はワーキンググループメンバーとして追加するよう整備局長に要請することができる。

（部会）

第4条 委員会の下部組織として、琵琶湖部会、淀川部会、猪名川部会を設ける。

2．委員会の判断により必要に応じて部会を細分することができる。

3．部会は、委員会からの指示された事項及び委員会了承を得た部会独自の必要判断事項について、地域の特性を十分に考慮した議論を行い、委員会に報告する。

4．部会委員は、別表 2 に示す者とする。部会委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

5．部会は、委員総数の過半数の出席をもって成立する。なお、委員の代理出席は認めない。

6．部会から委員会への報告内容の決定は出席委員の過半数をもって行うが、少数意見がある場合にはこれを付する。

（ワーキンググループ）

第5条 委員会は、河川整備計画に関する特定の問題を委員相互で議論し、理解を深めるため、必要に応じてワーキンググループ（以下WG）を設ける。

2．WGのメンバーは、委員長が指名するものとし委員会が決定する。

3．WGのメンバーは、原則として、委員会委員又は部会委員とするが、委員会が特に必要と認めた場合は、専門的知識を有する者を追加することができる。

(委員長及び部会長)

第6条 委員会には委員長を置き、各部会には部会長を置く。

2. 委員長及び部会長は、委員会で委員の互選により定める。
3. 委員長は、委員会の会務を総括する。
4. 部会長は、部会の会務を総括する。
5. 委員長に事故がある時は、委員長があらかじめ指名する委員会委員がその職務を代理する。
6. 部会長に事故がある時は、部会長があらかじめ指名する委員会委員がその職務を代理する。

(議事)

第7条 委員会は、委員長が招集し運営する。部会は、部会長が招集し運営する。

WGは、WGリーダーが招集し運営する。

2. 委員長は、必要に応じて2以上の部会又はWGの合同部会又は合同WGを開くことができる。
3. 委員長は、必要に応じて部会又はWGに出席し、発言できる。
4. 委員長は、必要に応じて委員会に部会委員又はWGメンバーの出席、発言を求めることができる。
5. 委員長、部会長又はWGリーダーは、必要に応じて部会又はWGに、所属部会又は所属WG以外の者の出席、発言を求めることができる。
6. 河川管理者は、委員の要請に対して積極的に発言するほか、委員長、部会長の許可を得て自ら発言できる。
7. 河川管理者はWGリーダーより要請があった場合にはWGに出席し、リーダーの要請に対して積極的に発言する他、リーダーの許可を得て自ら発言できる。
8. 委員長及び部会長は、一般の傍聴者に対して発言の機会を設ける。
9. 委員会は、積極的に関係住民の意見を聴取することを原則とする。

(情報公開)

第8条 委員会及び部会は原則公開とし、公開する情報及び情報公開方法について委員会で定める。

2. WGは、提出資料及び議事内容は原則公開とし、その他に公開する情報及び情報公開方法については当該WGで定める。

3. 整備局長は、前項で定められた内容に従って、情報公開する。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、近畿地方整備局が委託した民間企業が委員長及び部会長の指示を受け中立的立場で行う。

(規約の改正)

第10条 本規約の改正は、委員会委員総数の三分の二以上の同意を得てこれを行う。

(雑則)

第11条 本規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるが、その際、付録に示す淀川水系流域委員会準備会議の答申、準備会議資料及び議事録を参考にする。

付則

(施行期日)

この規約は、平成 1 3 年 2 月 1 日から施行する。

付録

- ・ 淀川水系流域委員会のあり方について（答申）
- ・ 第 1 回淀川水系流域委員会準備委員会資料及び議事録
- ・ 第 2 回淀川水系流域委員会準備委員会資料及び議事録
- ・ 第 3 回淀川水系流域委員会準備委員会資料及び議事録
- ・ 第 4 回淀川水系流域委員会準備委員会資料及び議事録